

検討の経緯

本町では、昭和40年代から50年代にかけて学校施設が建設され、一斉に更新時期を迎えつつある。一方で、少子高齢化による人口減少の時代を迎え、財政面でも厳しい状況となることが予想される。

このようなことから、学校施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び改修・更新費用の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保する「築上町学校施設長寿命化計画」を令和2年3月に策定した。また、令和2年11月には、築上町教育委員会では児童生徒数の減少により今後の入学児童生徒数の推移をもとに、適正な学校規模の検討など今後の築上町の小中学校のあり方について協議し、方向性をまとめるに至った。

上記のとおり椎田小学校・椎田中学校の老朽化等により喫緊に建て直しを迫られる状況の中、令和3年4月文部科学省委託事業「新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業」に応募し、文部科学省の支援のもと、ポストコロナを見据えた新しい時代の学びに対応した学校施設「椎田小中学校・地域コミュニティ一体型校」として整備を進めることとした。

検討スケジュール

- 令和3年7月 第1回築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会開催（事業内容の共有）
- 令和3年10月 第2回築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会開催（計画候補地の検討）
- 令和3年10月 椎田小学校・椎田中学校児童生徒へのアンケート調査
- 令和3年10月 第1回椎田小学校保護者ワークショップ（新しい校舎の施設・設備に望むこと）
- 令和3年11月 椎田小学校・椎田中学校保護者・教職員・校区住民へのアンケート調査
- 令和3年11月 第3回築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会開催
（新たな学校教育方針とプログラムの検討、配置計画の検討）
- 令和3年11月 第2回椎田中学校保護者ワークショップ（新しい校舎の施設・設備に望むこと）
- 令和3年11月 第3回椎田小・椎田中学校教職員ワークショップ（新しい校舎の施設・設備に望むこと）
- 令和3年12月 第4回築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会開催（施設計画方針の検討）
- 令和4年2月 第5回築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会開催（敷地・教室配置の検討）

椎田小中学校・地域コミュニティ一体型校における施設整備の在り方・目指す教育

◆築上町の目指す教育方針

築上町教育委員会の「小中一貫教育基本方針」に基づき「21世紀を担う“持続可能な社会の創り手”の育成」を目指すべく、町内2つの中学校区において小中一貫教育を推進する。

- ①「小学6・中学3制」を基本としつつ、教育区分を「4・3・2」とし、義務教育9年間の連続した系統性のある教育課程（カリキュラム）を編成し、実施する。
- ②小中連携を深化・発展させ、小・中学校の教職員が校種を超えて、指導・支援を行う。
- ③9年間を見通した教育の要として『キャリア教育』を位置付けるとともに、これまで取り組んできた「ICT教育」や「国際交流活動」をさらに推進する。
- ④これまでの教育活動の実績をもとに更なる教育的効果を生み出すために、コミュニティ・スクールを基盤として、「地域ぐるみで子どもを育てる」学校・まちづくりを推進する。

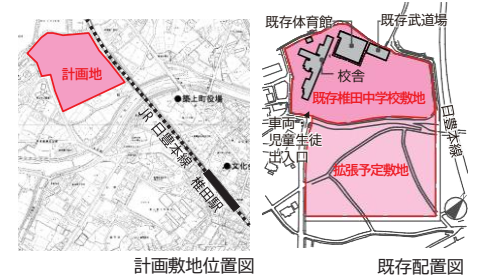
◆学びと育ちをつなぐ4つの視点

小中一貫教育の方針の達成に向け、次の4つの視点で取り組む。

- 視点1 子どもの学びをつなぐ**
新しい時代の学びを実現する9年間を見通す教育課程の編成や指導形態などの工夫・改善を図る
- 視点2 子どもの心をつなぐ**
子どもたちの教育活動の連続性を高める
- 視点3 教職員の意識をつなぐ**
小中学校の教職員間の「連携」と「協働」を深める
- 視点4 学校・家庭・地域との絆をつなぐ**
コミュニティ・スクールによる家庭・地域との連携・協力を一層推進していく

周辺環境・課題整理

築上町は福岡県の東部、周防灘に面した地域である。計画敷地は、築上町の中心部が見渡せる小高い丘陵地にあり、見晴しがい場所にある。椎田中学校区には、築上町中央公民館・文化会館コマーレ・椎田学習等供用施設（延塚記念館）等の社会教育施設があり、全ての住民の生涯にわたる「学びの拠点」として長く利用されている。



- ・児童・生徒数の減少：椎田中学校区内の4小学校の児童数・椎田中学校の生徒数は出生状況から今後も減少することが予想される。
- ・学校施設の老朽化：椎田小学校では、管理棟は築58年、児童棟は築48年が経過し、建物の老朽化が進んでおり、建替・改修が必要である。椎田中学校では、管理・教室棟は築52年経過かつ耐震性不足、増築部分の教室棟も築39年が経過しており、建替・改修が必要である。
- ・社会教育施設：各施設とも築年数の経過により設備の不具合やバリアフリー化対応となっていない施設もある。高齢者の利用者が多く固定化しており、若年層の利用が少なくなっている。また、学校との連携も希薄となっている。



◆築上町が考える新しい時代の学校の在り方

「小中一貫教育基本方針」の基本方針や4つの視点を踏まえ、「学校 × 地域」のつながりの強化により、地域コミュニティと学校が密接に連結し、児童生徒が地域住民に学び、地域住民が児童生徒と共に学ぶ「地域全体の居場所づくり」と捉える。居心地の良い居場所をつくるためには、それぞれの「つながり」が重要となる。基本計画では「つながり」を重視したこれからの学校の在り方をまとめる。

「児童生徒同士のつながり」「児童生徒と教職員のつながり」「教職員同士のつながり」「情報とのつながり」「地域住民とのつながり」等を意識した空間を構成する。



- 「児童生徒同士のつながり」
「児童生徒と教職員のつながり」
「教職員同士のつながり」
- 「地域住民とのつながり」
- 「社会情勢のつながり」
「安全や安心とのつながり」
「地球環境とのつながり」

椎田小中学校・地域コミュニティー型校施設整備基本計画

◆施設づくりの考え方

築上町小中一貫教育基本方針に基づき、小中一貫した教育課程に対応した施設環境、学年代階の区切りに対応した空間構成や施設機能、異学年交流スペースの充実など、9年間の系統性・連続性のある教育活動を効果的に実施できる施設環境を確保する。児童生徒一人一人が生き生きと豊かに学習に取り組める施設づくりを目指し、多様な学習内容や学習形態に対応した高機能で多機能な学習環境を整備する。

また、築上町では学校と社会教育施設を複合化し、地域の人が学校に来やすくなる空間を整備する。児童生徒は地域住民に学び、地域住民は児童生徒と共に学ぶことができる学びの場を整備する。

■配置計画

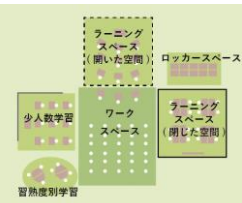
計画候補地は検討の結果「既存椎田中学校敷地を拡張」し、施設の配置については周辺の住宅環境への配慮や既存学校施設との連携、社会教育施設との連携に配慮して計画する。児童生徒の通学路や周辺道路の安全に配慮した施設配置とする。既存椎田中学校を運用しながらの建設工事を想定し、仮設校舎は建設しない方針とする。



■小学校のあり方

一斉授業もできる学習空間「ラーニングスペース」にオープンなワークスペースを隣接させ、多様な授業や学級活動の展開ができるよう整備する。フレキシブルなワークスペースでは発達段階に応じてスペースの使い方に工夫を施し、多様な学習方法や発表の場を確保し、その中で児童生徒同士の交流や関わり合いを育むよう施設整備を行う。

学年ごとの教室配置にまとまりをもたせ「学年ユニット」を構成しユニットの中で様々な大きさの学習集団で活動ができるよう計画する。

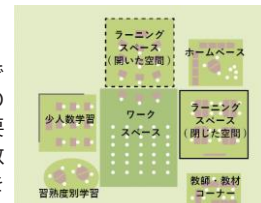


学年ユニット (小学校) のイメージ

■中学校のあり方

全教科に専用の「ラーニングスペース」を設け、「ホームベース」から毎時間教室を移動して授業を受けること(教科センター方式)を基本とする施設整備を行う。但し、特別教室型からの移行期となる為、特別教室型としても運用できることが必要である。教科の専門性や特色を生かす為、教科毎に集約して「教科ユニット」として配置する。

多目的利用ができるワークスペースでは少人数学習等への対応や教科毎に必要な資料をまとめ、教科毎の活動の充実を図る。



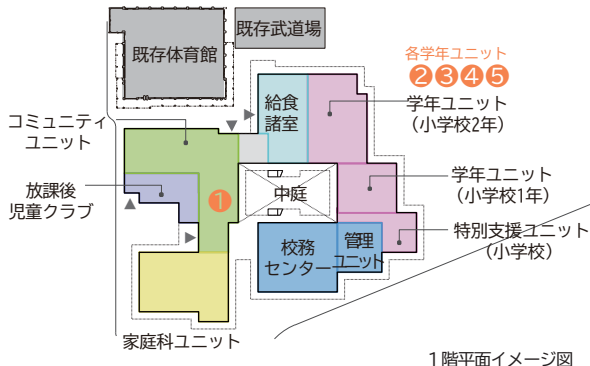
教科ユニット (中学校) のイメージ

■学校と社会教育施設の複合化

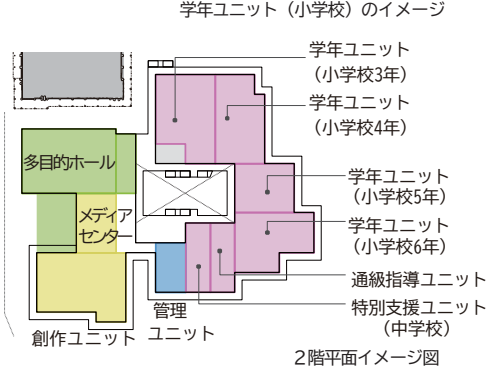
学校開放の考え方を転換し、「社会教育施設を学校に開放する」という視点で複合化を検討する。学校利用も地域利用も公平に取扱うことが可能となり、専有利用の抑制や地域の人にも「学びの拠点」としての利便性が向上し、利用しやすい環境が整備可能となる。



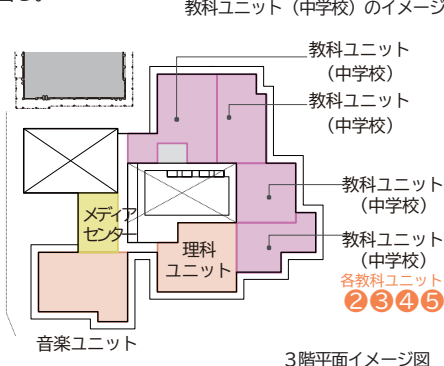
地域と学校の協働スペースのイメージ



1階平面イメージ図



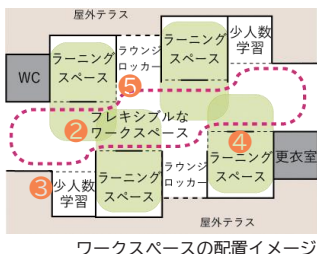
2階平面イメージ図



3階平面イメージ図

建物概要 (R9年 予測)	
児童生徒数	: 425人
階数	: 3階建
延床面積	: 約16,200㎡

凡例	
	普通教室ゾーン
	特別教室ゾーン (学校利用のみ)
	特別教室ゾーン (学校・地域共用)
	コミュニティセンター
	放課後児童クラブ
	管理ユニット・校務センター
	給食諸室
	倉庫他
	既存建物 (体育館・武道場)



ワークスペースの配置イメージ



フレキシブルなワークスペースのイメージ



少人数学習スペースのイメージ



ICTが整備されたラーニングスペースのイメージ



児童生徒の交流空間のイメージ